
君の涙と僕の心

歩夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の涙と僕の心

【Nコード】

N3264B

【作者名】

歩夢

【あらすじ】

陸と夢は双子の兄妹。でも陸は夢に恋をしてしまった。禁断の恋愛ストーリー

ブローグ

キミのナミダとボクのココロ

俺の一方的な片思い

そう

叶うわけないんだ

叶うわけが・・・・・・・・・・・・・・・・

「陸う？」

「陸つたらあ！」

「もう！起きなさいよ！！！！」

朝

聞こえるのは

目覚ましの音と

愛しい

愛しい声

「・・・おっす」

「お・・・おっすじゃないよ！もう・・・休みの日だからってこんな時間まで寝て・・・」

何時だと思ってんのよ・・・今日は銀河とデートの約束してるのに・・・」

銀河とデートだあ？

誰か行かせるか・・・

俺はもう一度寝ようとした

「寝ちゃ駄目っ・・・!!」

夢は俺の手を掴んで布団から引き釣りだそうとする

その顔は涙目だった

俺は・・・

”可愛い”

とってしまった・・・

兄妹なのに・・・

双子なのに・・・っ

「何か食いたいもんある？」

「えっ・・・んー！そうだなあ」

「俺・・・飲み物買って来てやるよ！」

「あっありがとう！」

「何がいい？」

「お・・・オレン・・・コーラがいい！」

「おk！まってて」

うわーん

何がコーラだよ！馬鹿っ・・・

私炭酸系駄目なのに・・・

カッコつけるからだ・・・

―陸視点―

俺は陸

皆多分知ってると思うが・・・

俺は今

銀河と夢のデートを見張ってる

ってかあっ・・・夢・・・

本当はコーラは嫌いなのに・・・コーラなんていいやがって・・・

くそお！俺なら・・・わかってやれたのに・・・

―夢視点―

はあ・・・ちょっと疲れたかも・・・

でも銀河君優しいし・・・

かつこいいなあ・・・

本当惚れちゃうよー

「はい！おまたせ！」

「あっ・・・ありが・・・ってコレ・・・」

紙コップに入ってたのは

私が選んだコーラじゃなくて

オレンジジュースが入っていた

「本当は・・・オレンジジュースがよかったんだろ？」

「え・・・うんっ！」

「夢になにするか聞いた時『オレンジジュース』がいいって言おうとしただろ？」

「っ・・・うん」

「俺も実はコーラとか駄目なんだ・・・でもついダチと遊ぶ時は

コーラと言っちまうんだよな・・・」

そうなんだ・・・

というか・・・嬉しいっ・・・

銀河君っ・・・見ててくれてたなんて・・・

「あ・・・りがとう」

「どういたしましてっ」

そして銀河君は私の頭をクシャッと撫でた

この時間が

一生続けばいいのに――

第貳話：オレの心境？

「ただいまあゝ」

夢の声―

愛しくて

たまらない

「お帰り」

本当はめっちゃくちゃドキドキしてるけど

冷静っぽくしてる俺

「陸っ」聞いて！今日銀河君とねえっ」

ああっ・・・

聞きたくねえ・・・

全部知ってたんだよっ・・・

「陸う・・・聞してる？」

涙目のアイツ

くっそ・・・

理性ぶっ飛びそう

「っ・・・ああ。何？」

「しんどの・・・顔真っ赤だよっ」

お前がこんなに近くににいるからじゃねえか・・・

くそッ・・・

こんなに近くににいるのに・・・

「夢・・・」

「どうしたのっ？」

「俺・・・夢の事がっ・・・す——」

「ご飯できたわよー！」

おい・・・

タイミングよすぎ・・・

くそっ・・・

「わあい♪あっ、陸行こっつ！」

そう言っつて夢は俺の手を引っ張った

「っ・・・／／／／／」

絶対俺

顔真つ赤だ・・・・

つくそ・・・

目エ覚ませ・・・

俺・・・

夢はただの妹だっつーの・・・

「あーっ！おいしい！お母さんのご飯はやっぱり最高ッスね！」

「・・・夢下品よ」

「ふあーいつ！」

「まあ俺等もなれたけどね♪烈兄ちゃん♪陸兄ちゃん♪」

弟の紅が言う

そしたら

「ああ。まあな」

つて烈の兄貴が言う。

「ひっどおい！紅の馬鹿！この天ぷらもらうっよっ！」

「ええ！どうしてそうなるの！？陸兄ちゃんもなんとか言ってよお
！！」

「・・・」

「・・・陸兄ちゃん？」

「陸？」

「陸っ・・・どうしたの？」

「陸！やっぱ今日変だよ！」

確かに

俺今日

変かも・・・

なんか

銀河と夢のデート見たせいで・・・

変になったかも・・・

”嫉妬”か・・・？

嫉妬なら何回もあるけど

こんなに嫉妬したの

初めてだっ・・・

第参話：ワタシのせい？

やっぱり今日の陸・・・

”絶対変だ”

私のせいかなあ・・・

「今日の陸。可笑しかったわねえ」

「最近いつもこうだ」

「だよね・・・」

「俺が思うに――」

お兄ちゃんの烈が口を開いた

「俺が思うに・・・”恋”してんじゃねえか？」

私はついつい口を開けっ放しにして瞬きすらわすれた

「は・・・えっ・・・？陸が恋っ??」

「ん。そうだ」

ありえない！ありえない！

「夢。学校で変わった事は？」

「んっ・・・ないっあああ！」

「何・・・夢ちよつと黙んなさい」

「んっ・・・」

「んで何？」

「そついえば最近・・・陸・・・。私の親友の祐奈と仲いい！」

「それだ！」

「そうかあゝ！」

「んじゃ今度その祐奈ちゃんを家に呼んできなさいよ」

「うんっ！」

―陸視点―

携帯を開いた

”新着メール2件”

とあった。

「ああっ・・・」

一人は”北宮祐奈”

夢の親友で俺の恋心を唯一知ってる人で

いつも相談に乗ってくれてる

もう一人は・・・

あ？

”秦野銀河”だあ？？

なんで俺なんかにメールしてきたんだ・・・？

兎に角まず祐奈に返事を送ることにした

F r o m : 祐奈

件名：銀河と夢がデエトオオ？

本文：マチで？白銀やばいじゃん！どうすんの？

銀河君かつこいいからねえ・・・

もちろん白銀もかつこいいけど・・・（笑）

そつだ・・・もうすぐ夢の誕生日だよねえ？

To：祐奈

件名：Re：

本文：そ・・・俺どうしようΣω・

マジ勝ち目ねえかしんねえ・・・

あー。夢の誕生日来遇っ！

ちなみに俺の誕生日！（笑）

俺は北宮にメールを送って

銀河からのメールを見た

From：○○○○@kkk

件名：銀河だ（＾o＾）／

本文：よっす

お前のクラスの銀河だ！アド登録よろしく

お前に聞きたい事が合ってメールしたぜ

夢の誕生日のことなんだけどーっ

夢・・・何がほしいと思うっ？

教えてくれ><

あっ！気が向いたらお前の誕プレもやるから^^笑

そんなんしらねーから！

第一何ほしいかぐらい自分できけっつーの！

実際知ってるけど・・・

俺はあの日のためにこんだけ金もためたんだ・・・

俺はもう幸せすぎて倒れてしまいそうだった

「っあ・・・ごめ」

夢は正座をして謝った

いや・・・

なんで謝んだよ・・・／／／／

そこが可愛いんだけど

「は・・・早くおいでよ！ご飯冷めちゃうよっ」

「ああ。今行く」

俺は制服を着て1階へ行った

兄貴は高校二年なのでもう学校へ行った

高校までは遠いので俺が起きる30分前にはもういない

「あつ陸兄ちゃん！大丈夫？」

弟の紅が言う

紅は中一。

「ああ。大丈夫」

「もう・・・心配させるんだからあ・・・」

お母さんも言う

別に心配しなくてもいいのに――

「もう！陸も恋で悩んでるなら悩んでるって言うてくれたらいいのに」

夢はそう言ったって・・・

ええ？

なんで俺が恋で悩んでるって知ってんの・・・？

もしかして夢に俺の気持ちが・・・

バレた？

「夢っ俺――

「陸もさっ言うてくれたらいいのに・・・」祐奈が好きって事――」

「ぶっ！」

「きたね！」

「もーっ夢に似てアンタも下品ねー」

・・・え？

今・・・夢”祐奈の事が好き”って・・・

ええ????

なんか勘違いされてるんすけどーっ

「あのな・・・夢——」

「今度”祐奈ちゃん連れてきなさいよ！」

「って・・・え」

「そーだよv祐奈連れてきてよ！もう！水臭いなあ陸も・・・」

「つとま——・・・」

「あつもっこんな時間だ！行こう！陸！紅！」

「うんっ！」

「ああ——」

俺好きなヤツに勘違いされたままだ・・・

「おっはよ！夢えゝ」

「おはよ！祐奈！ねえ祐奈！祐奈って陸と付き合ってるんだよね！」

「えっ・・・ちよつとま——」

「まじで！？北宮って陸と付き合ってたの！？」

「ビュービュー！」

「っおい！馬鹿野郎！付き合っ
てねえよ！」

くっそ・・・

この男子どもめっ！

なんなんだよ・・・マジで！

「っね・・・そうなの？」

「ち・・・違っっ！」

「えーっ北宮さん陸君と付き合っ
てるの？」

「いやあ～！陸君付き合っ
てないと思ってたのに・・・」

「付き合っ
てなんか——」

北宮も困っ
てるじゃねえか・・・

北宮・・・マジごめん

「陸っ
」

「・・・秋羅っ！」

桜井秋羅

9月に大阪から転校してきた

「なんや。お前夢ちゃんが好き違ってんや——」

「・・・っ・・・好きだったらなんだよ・・・」

「よかった。僕夢ちゃんが好きやねん——」

一瞬時が止まった

確かに夢はモテる

自分じゃ気づいてねえけど

でも・・・

こつまともにダチから言われると

ズキってくるもんがある——

「へ・・・がんばれ！」

「ああ。頑張るわ。でも銀河と夢ちゃん付き合ってるやん？一緒に二人を別れさそうや——」

俺は確かに夢と銀河が付き合っているとこなんてみたくなえ

でも

でも・・・

これで夢は喜ぶのかよー？

第五話・ワタシのドキドキ

「俺は――」

「夢！信じて・・・私白銀と付き合ってないよ・・・」

なんだ私の勘違い！？

「・・・そ、そうなの？・・・ごっごめんね・・・」

「うん・・・いいよ・・・それに本当に陸君が好きなのは――」

それを言いかけたとたん――っ

「夢ちゃんv」

「っ・・・秋羅君っ？」

「あつ・・・秋羅君っ」

「あつ祐奈ちゃんやゝゝごめんちよつと席はずしてくれへん？」

「あつ・・・わかった・・・じゃーね・・・夢」

私はヒラヒラと手を振ってそこで祐奈と別れた

「んでっ秋羅君っ何？」

「・・・あんなあ、俺なあ、夢ちゃんの事が好きや」

「ええっ！」

そんなのいきなり困るよ・・・

「・・・ゝなんて言ったらどおする？」

「へっ・・・」

なんだ・・・嘘か・・・

ちよつと本気にした私が馬鹿みたい・・・

「なんやゝゝ本気やと思うてんやろ？かわええわあゝゝ」

「う・・・五月蠅い／＼／」

「ま、そんだけ。それじゃーなあ」

そう言って秋羅君はどっかに行っちゃった

でも・・・

なんなんだ・・・ちょっとドキドキしてた

「っ・・・／／／」

ドキドキがとまらないよっ・・・

駄目だ！私っ・・・私には・・・銀河がいるのにつ・・・！

――秋羅視点――

ん！。

ちよい脈アリってとこかな

本気にしてたっばいし♪

あと少しでいけるかもなあ・・・v

後は・・・

銀河と夢ちゃんの仲を引き裂くだけ・・・やな

楽しみやわっ♪

っ・・・でも

銀河を消しても協力なライバルがおるな―

ああ。

男なんて全員敵みたいなもんや

まあええわ

どうせ夢ちゃん俺のものになるんやし♪

あとちよいの辛抱や―

第六話：オレのムカムカ

「俺は断るっ！」

「あ？なんでや？？」

「俺は・・・自分の気持ちより夢の気持ちが一番だからなっ！」

「ふうん。そおでつか。それじゃさいなら」

なんなんだアイツ――

変なヤツ――

「白銀君っ！」

「お。北宮じゃねえか。さっきは悪か――

「聞いてっ・・・夢がっ・・・」

え――

夢が

秋羅と二人つきりだあっ？？？？

「ありがとう！北宮！」

「うんっ！」

嘘だろお・・・

アイツと二人つきりなんて危ねえっ！！！！！！

早く――

「ごちそうさまぁ・・・」

「なんだよ。今日は全然食べないんだな」

「あら。次は夢なの？陸といい夢といいやっぱ双子ね」

双子・・・か

確かに俺等はよくにてるよな――

「わた・・・私はただ友達とハンバーガーショップ行って食べ過ぎただけだから！」

あ・・・？

嘘付けこのやるー

俺より先帰ってきてたじゃねーか……

「もー。馬鹿ねえ」

「三個ぐらい食ったんじゃね？あの調子じゃ」

「えーっ」

「もう……あ……ちょっと二階行ってくる！」

そして夢は自分の部屋に行った

「俺も！ごちそーさん！」

俺は夢の部屋へ行った

やっぱり秋羅と何か――

「夢？あけるぜ……っ？」

「えっ・・・あ、うん」

夢の部屋は夢の匂いがした

夢はベットの上で座っていてなにやら深刻な表情だった――

「・・・陸」

「・・・なんだよっ」

「・・・私・・・わかんないや」

「あ？なんだよそれ――」

「ごめん！お風呂行ってくる！」

「おい！？待てよこら！」

でも俺の話なんて無視で風呂に行ってしまった

でも俺は夢の机の上にあるものが置いてあったを気づいた――

それは

夢の

” 日記だった ”

俺は駄目なのを承知で見て・・・しまったんだ――

12月7日

銀河君が告白してくれた！

両思いだった♪

やったあゝww

返事は勿論OK♪♪

12月20日

今日は銀河と初デート♪

めっちゃおもしろかった・・・！

オレンジジュース美味しかったなあ・・・

また絶対行こうね♪

そして・・・

俺は今日を見ちまった

12月21日

あと少しで学校も終わりだあ・・・

祐奈には悪い思いさせちゃった←

ごめんね

んで今日秋羅君と話したよ♪

『スキヤ』って言われたけど冗談だって（笑）

なんだかちよっぴり嬉しかったような悲しかったような・・・

変な気持ち！

でもすごくドキドキしてたよ。

あ・・・？

なんだこれ・・・

めっちゃムカムカするんだけど・・・

俺また嫉妬しちまったよ・・・

くそっ・・・

俺も頑張んなきゃな

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3264b/>

君の涙と僕の心

2010年12月30日02時38分発行